

2006.03.09

九州工業大学における 地域戦略及び知的財産戦略 —現状と将来構想及び問題点—

九州工業大学学長 下村輝夫

九州工業大学の地域連携

北九州学術研究都市 (国公私連携 + 産学官連携)

九工大生命体工学研究科

九工大ヒューマンライフIT開発(HIT)センター

連携融合事業(九工大 - 北九州ロボティクス研究所)

単位互換制度(九工大 - 早稲田大 - 北九州市大)

SoC設計センターものづくり講義の単位化

飯塚トライバレー構想 (ベンチャーシティ創出)

九工大情報工学部

九工大インキュベーション施設 (ベンチャー育成)

飯塚市トライバレーセンターから非常勤IM派遣

中核人材育成事業(九工大先端金型センター)

中核人材育成事業(マイクロ化総合技術センター)

ニーズ会(ベンチャー交流事業; 飯塚市)

現代GP: 地元企業と連携した実践的IT技術者教育

知財マネジャー派遣
外国出願支援

JST

知財提供 (42件)

九工大知財本部

北九州TLO

技術移転 (20件)

九工大はすべての知財情報を北九州TLOに公開
北九州TLOは活用希望特許を出願・活用
両者は定期的に協議して、知財取扱方法を改良
知財関連セミナー等の共同開催

地域連携事業例

起業家育成塾、事業開発ビジネス講座

現代GP (学生と地域から展開する体験型
理数学習開発)

出前講義 (小中高等での講義、H7より実施)

ジュニアマイスター講座、スーパーサイエンススクール支援

産学官連携による危機管理システムの構築

遠隔地講義システムの構築

高大連携 (遺伝子講習会、情報教育など)

北九州エコタウン

九工大エコタウン実証研究センター

NPOとの連携 (生分解性プラスチックリサイクル事業)

(九工大先端金型センターの支援)

天神サテライトキャンパス (福岡市)

情報技術セミナー

免許法認定公開講座

九州工業大学の知財戦略と構想

- 身の丈に合うサイズの知財本部活動から自立に向けて -

(目標) 地方のハンディキャップを克服する知財システムの構築
 (方針) OJTによるノウハウ蓄積、人材育成、実践を通じた理論武装
 優れた手本に学ぶ姿勢、1人1発明/年へ

準備段階

現在

将来構想

発明

教職員の意思疎通
ベンチャーへの対応

弾力的な発明規定
発明意欲の醸成

原則職務発明
タイプによる多様な対応

活用

発明者の個人活動中心
広域TLOの利用

ネットワーク(TA-net)
民間機関の活用

**全国展開と地域連携
のバランス**

人材

外部人材の雇用
常勤職員の拡充

現員の育成
OBの活用(成功報酬型)

若手専門家の養成
民間機関との連携

組織

大学単独知財本部
広域TLOとの連携

産学連携組織の一活動へ
多様なネットワーク

地域の知の拠点
国際連携

戦略

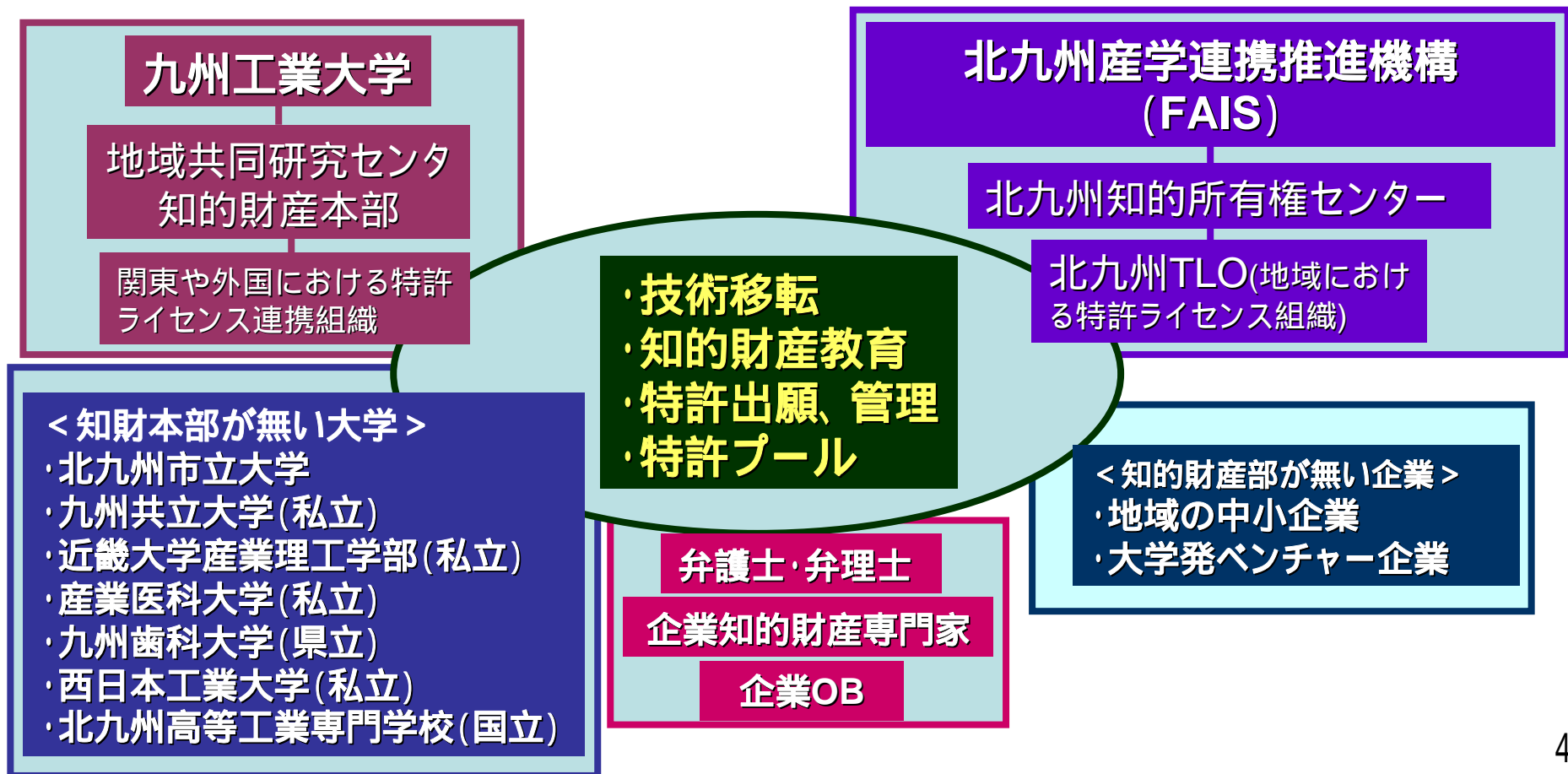
発明数の増強
ニーズ対応型研究

産学連携活動の一つへ
活用対象知財の重視

地域の知財の拠点形成
基本特許・活用型特許
のバランス重視へ

北九州地域 知の拠点構想 -知財部門-

- ・技術移転----北九州TLOが地域で、九工大と契約する機関が東京、外国で技術移転を行う。
- ・知的財産教育-----地域の大学教職員が不足を補完しあい、弁護士・弁理士、企業専門家・OB等と連携して、学生及び社会人に教育を行う。
- ・特許出願・管理----北九州TLOが各大学の発明を北九州TLOが出願人となり、特許出願・管理を行う。
九工大は、各大学が出願人となり出願する業務を受託ベースで支援することが可能。
- ・特許プール-----地域の特定業種企業と大学が特許プールを行い、強固な排他権を確立し、地域産業を守る。



自治体関連施設の利用など

【**】共同事業・連携事業により無料
** 有料(一部減額補助)

(**)自治体施設として利用
等価交換など

北九州学術研究都市
《開発研究センター》
【北九州ロボティクス研究所】
連携融合事業による利用
《北九州ヒューマンテクノクラスター推進センター》
知的クラスターにおける利用
インキュベーション施設
九工大発ベンチャー5社が入居

【九州ヒューマンメディア創造センター(八幡東区)】
ネットワークデザイン研究センター利用:【ギガネット
システムの利用】九州ヒューマンメディア創造センターとの
共同事業

北九州テレワークセンター(小倉北区AIMビル)
ネットワークデザイン研究センター入居

福岡県等関連施設の利用
《研究成果活用プラザ》
JST採択事業の利用
福岡システムLSI総合開発センター(福岡市)
九工大知的クラスター推進室の設置
九工大発ベンチャー企業の入居

北九州市立の廃校有効利用
天籟中学体育館等
学生コンテスト事業、改修に伴う施設利用など

北九州市との等価交換
戸畑団地と学研都市 生命体工学研究科用地

新北九州空港関連事業
【HITセンター事業】
メーテルロボット及び画楽による観光案内等
【エコタウン実証研究センター&NPO事業】
リサイクルプラスチックの利用と再生品の販売

問題点

- ・自治体の財政状況の悪化(税収の減少、市民等への説明責任)
地方では自治体による資金援助には限界が多い
- ・地方財政促進特別措置法の施行措置令改正関連
承認の迅速性の欠如 競争的資金による事業への対応が困難

地域との連携及び知財関連の要望

知財関連

【基本方針】 知財活動の自立からプロフィットセンターへの展開

【弱点】 地域では大学の知財を活用できる企業が少ない
基礎研究の成果である知財を維持することが財政的に困難

【戦略と要望】

大都市における知財ネットワークの形成 (TA-netなど)

中期戦略 (HITセンター & ベンチャー等) と長期戦略 (基礎研究知財の活用)

大学発の基礎研究関連知財に対する維持費用の支援

JST方式 (JSTによる評価を含む) による成功報酬制度

地域知財プール制度の導入

【国際戦略】 アジアにおける知財先駆者としての地位確立

地域連携から世界戦略へ

【基本方針】 地域の必要な存在としての確立とアジアのリーダーの地位へ

【戦略と要望】 知財とノウハウを活かした大学への変貌

アジア拠点を活用した人材養成と知財の活用

地域連携の選択拡充 (若年層教育が主眼)

形式重視から実質成果重視政策

九州工業大学の挑戦

- 地域における革新的教育研究拠点の形成から世界へ -

(基本理念)

九州工業大学は、わが国の産業発展のため、品格と創造性を有する人材を育成します。

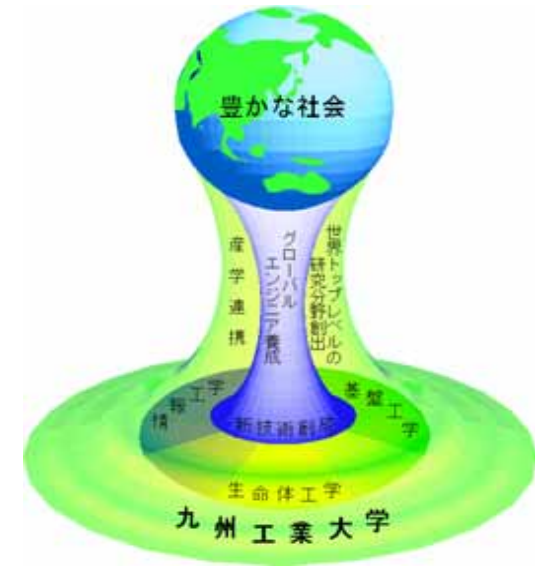
(基本方針)

開学以来の教育理念を基本とし、志(こころざし)と情熱を持ち産業を切り拓く技術者・知的創造者を養成するため、質の高い教育を実行します。

研究活動を常に活性化し、より多くの優れた研究成果を創出します。特に本学の各分野において、科学に裏付けられた融合技術や境界領域の創成を行ないます。

教育・研究で培った知の公開と価値創造型もの創りを推進し、技術革新を社会を支えるイノベーションにつなげ、地域社会との連携と調和に務めます。

社会に対する大学の責任(University Social Responsibility)を重視し、大学に係るステークホルダーに対する説明責任を果たせる経営を行ないます。



北九州学術研究都市
飯塚トライバレー構想

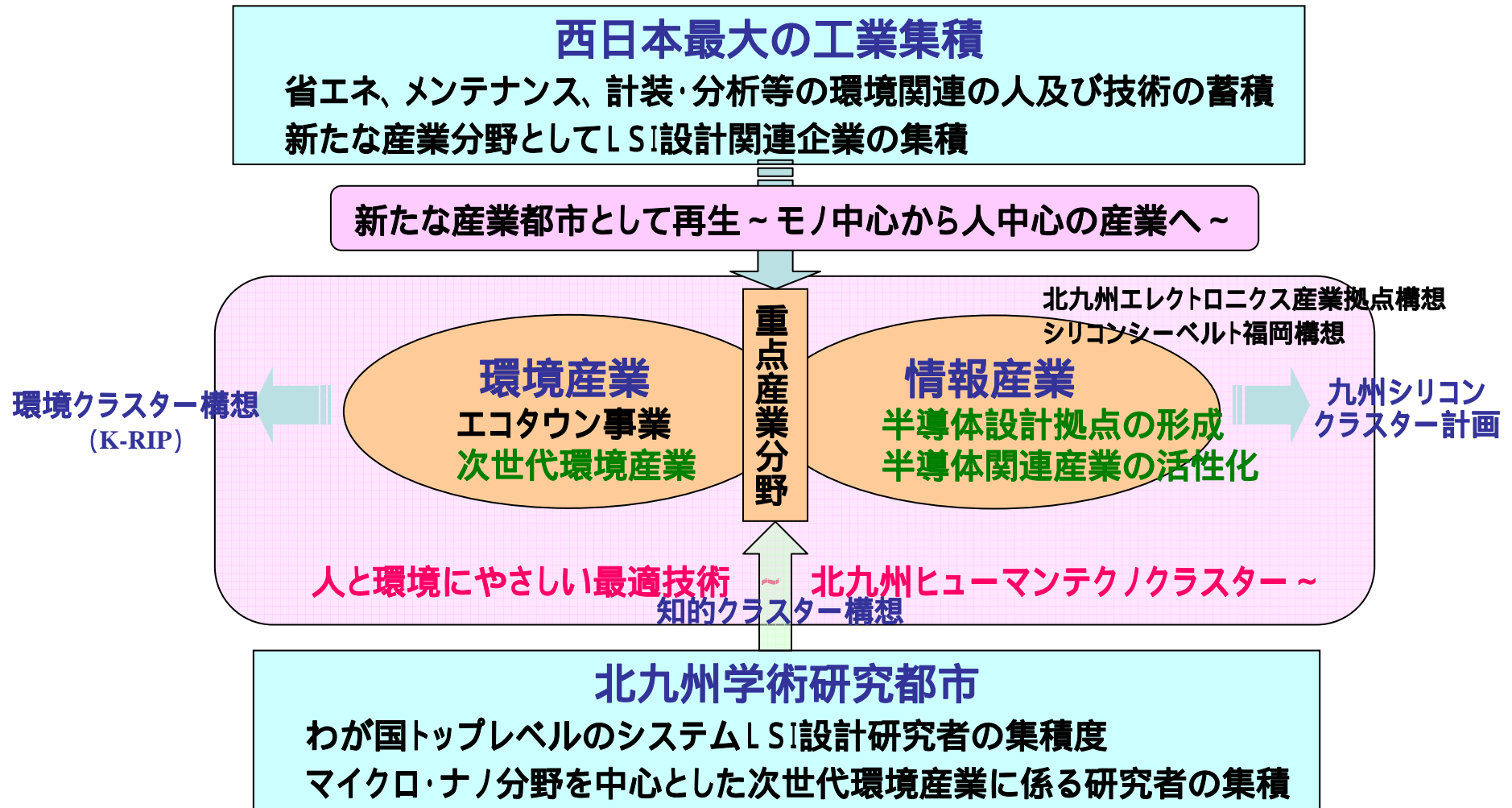
地域連携アクションプログラム

学生と地域から展開する体験型理数学習開発(現代GP)
 地元企業と連携した実践的IT技術者教育(現代GP)
 サイエンスハイスクール、是前講義(地域貢献事業)
 スーパーティーチャーズカレッジ(地域貢献事業)
 免許法認定講座、情報技術セミナー

重点研究センター構想
 HITセンター(モード型研究)
 ベンチャーバレーの創出
 環境首都構想の実践事業
 産学官民拠点の形成
 知的財産の多様な活用

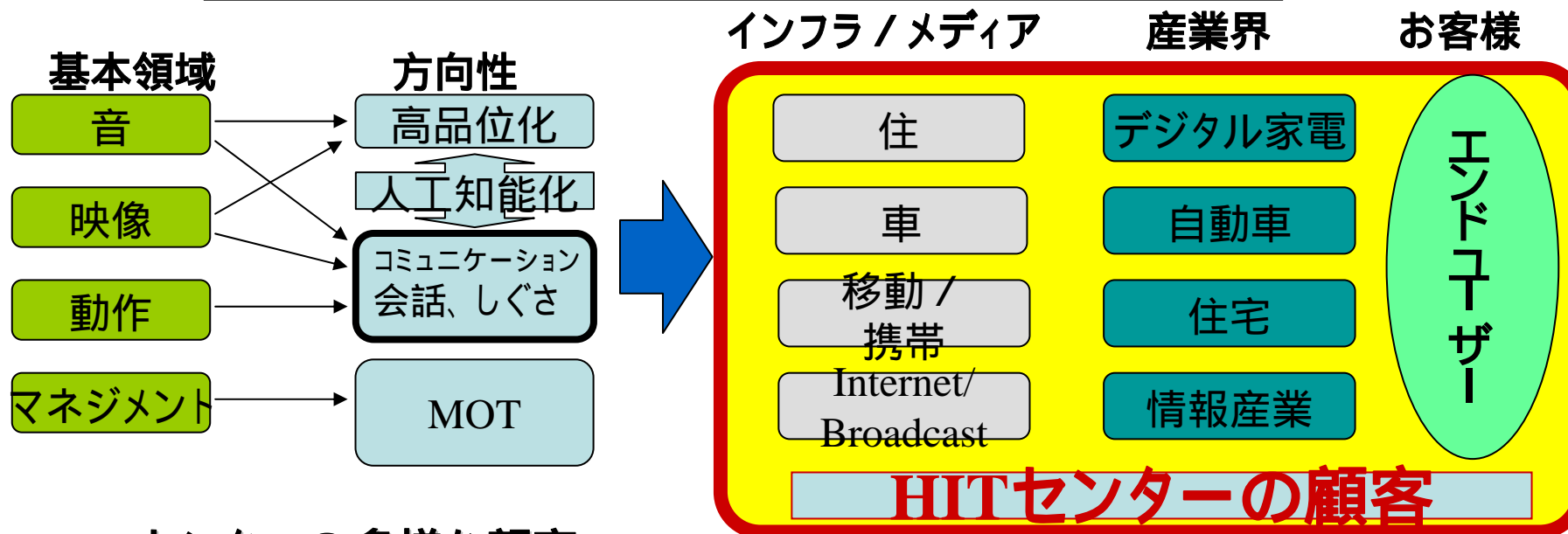
アジア教育研究拠点事業(馬国)
 サリー大学との相互交流(英国)
 学生・教職員相互交流(韓国)
 学生の英語研修派遣(米国、豪州)
 知財国際交流(韓国)

北九州ヒューマンテクノクラスター構想



HITセンターの活動

参考資料3



HITセンターの多様な顧客

- 対話システム：カーナビ、ロボット、半導体製造装置メーカー、携帯電話コンテンツ配信会社
住宅設備機器製造会社、アニメーション関連企業
- インタラクティブディスプレイ：イベント関連企業、ディスプレイメーカー
- 高音質化、高画質化：AV機器メーカー(複数社)、別業界からの参入希望(大手ガス会社、ITメディア製造会社)
- 半導体メーカー：実装技術(要素技術提供者、製造装置会社など10社以上)
- 企業風土改革(Management of Technologyとして)：エレクトロニクス部品メーカー

H17年度 HITセンター技術料収入：1250万円(ライセンス収入739、コンサルタント収入518万円)

H18年度はコンサル企業との専属契約を通して、新ビジネス開発により大幅な増額を計画中